



## できごと

子ども図書研究室は4月1日（日）にリニューアルオープンしました。

それまで研究室の子ども図書は、室内での閲覧か、県内の図書館を通じた閲覧・貸出しができませんでした。

4月から、全点収集図書とは別に職員が選定し複本を購入した図書について、直接貸出するサービスを開始しました。

遠方にお住まいで来館が困難な方につきましては、お近くの図書館を通じた貸出も従来どおり行っていますので、ぜひご利用ください。

このリニューアルオープンに当たり、4月20日（金）に同研究室において記念イベントを行いました。

（裏面にて、概要を紹介します。）

## ◇子ども図書研究室のテーマ展示◇ ただいま展示中です！

- ◆「オリンピックの本」◆「『あかずきん』読み比べ」
- ◆新着図書も展示中です。

## ◇イベント情報◇

### ◆県立中央図書館 子ども図書研究室講演会 「子どもの科学の本を知る」

講師：塚原 博 氏（実践女子大学教授）

日時：平成24年7月20日（金）午後1時～3時

会場：県立中央図書館 講堂

定員：100人（先着順）

申込：6月5日（火）から

来館、電話、FAXまたはEメールで

電話：054-262-1246 FAX：054-264-4268

[webmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp](mailto:webmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp)

### ◆新刊サロンが始まります！

新刊を囲んでおしゃべりしませんか？

第1回 6月20日（水）10：30～

## 新着資料から

### 知識

『つぎ、なにをよむ？』

1・2年生』



秋山 朋恵／編  
偕成社  
2012年1月

「たんてい・どろぼうのとびら」「ふしぎのとびら」など、10種の中から希望の扉を開くと、「はじめの1さつ」が紹介される。その後、チャートの質問に対して、はい、いいえで答えていくと、次に読む本が紹介される。性格診断めいた趣向は子どもたちを楽しませるだろう。「はじめの1さつ」が「ソロリ」シリーズであることなどに批判もあろうかと思われるが、次に読む本には、『大どろぼうホッツェンプロッツ』など、子どもたちにぜひ手に取ってもらいたい本が入っている。【小学校低学年から】（鈴木由）

### 絵本

『たまごってふしぎ』

アリス&マーティン

・プロベンセン／作

こみや ゆう／訳

講談社

2012年1月



たまごと聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？おいしいたまご料理？それとも大きな恐竜のたまご？この世の中には、実に様々なたまごが存在し、そのたまごから、今も昔も変わらず新しい命が誕生していることを、あたたかな絵と語りかけでわかりやすく紹介している。

「なんのたまご？だれのたまご？」の答えを知りたくて、思わずページをめくってしまう…。その度に、次々と新しい発見が飛び出してきて、大人も子どももいっしょになって楽しめる一冊である。【3、4歳から】（島田）

## 子ども図書研究室 リニューアルオープン記念イベント

**前**半のセレモニーは、谷野館長の挨拶に始まり、元県教育長で静岡文化芸術大学理事の鈴木善彦氏から祝辞をいただき、最後に貸出用図書の書架を背にテープカットを行いました。

後半は講義・講演で、まず当館職員が研究室の沿革と概要、所蔵する全点収集資料と貸出可能資料を紹介し、最後に日本児童文学者協会会員で家庭文庫「トモエ文庫」主宰の草谷桂子氏が「絵本の中の子どもと図書館」と題した講演を行いました。読み聞かせのボランティアや学校司書、図書館員など、大勢の方に参加していただき、大変熱気のあるイベントとなりました。

以下、後半の講義と講演について紹介します。

**子**ども図書研究室は、子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等を支援することを目的として、平成16年6月18日に開室しました。この設置目的は、平成13年施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」と、それに基づく国および静岡県の読書活動推進計画を根拠としています。

運営の基本方針として掲げられたのは次の4点で、児童サービスを根幹的業務として行っている市町立図書館を支援するという、県立図書館としての方向性を強く打ち出したものとなっています。

- ①子ども図書資料及び研究用資料の収集、保存
- ②調査研究への支援（レファレンス）
- ③市町立図書館（室）への支援、協力
- ④その他子ども読書活動の推進に対する支援

**全**点収集資料の紹介は、ヘレン・バナーマン（バンナーマン）著の『ちびくろサンボ』を題材に行いました。1899年にイギリスで出版され、欧米や日本などで人気を博すも、差別的な図書として次第に排除されるようになった歴史を、研究室で所蔵する外国語（復刻）版や

日本で有名なフランク・ドビアス絵の岩波書店版を始めとする各種翻訳版を実際に紹介しながら解説しました。

**4**月から直接貸出サービスを開始した貸出可能資料の紹介は、貸出可能資料によるブックトーク案の実演という形で行いました。「空を飛ぶ」というテーマに沿って、飛行機や鳥（鳥の巣）、動物、植物、太陽に関する小学校3～4年生向けの本やおはなしを紹介し、導入部分や途中では、紹介した本に作り方が載っている紙飛行機を実際に飛ばしました。終了後に参考として、このブックトークの為に作成したシナリオを参加者に配布しました。

**草**谷桂子氏の講演「絵本の中の子どもと図書館」では、実際に絵本を何冊も開いて紹介しながらお話しいただきました。『はちうえはぼくにまかせて』や『ごめんなさいフォリオさん』、『ぼくのブック・ウーマン』、『おはなしこねすみロミュアルド』、『コアラとお花』、『わたしのとくべつな場所』といった絵本の中で、図書館はそれぞれさまざまな形で描かれていますが、人びとに安心感を与える開かれた場所として描かれている点では共通していることを指摘され、静岡県立中央図書館やこの子ども図書研究室もそのような存在であってほしいと結んでいただきました。

### 所蔵資料から

文学

『ちびくろさんぼのおはなし』



ヘレン・バナーマン／さく・え  
なだもと まさひさ／やく  
径書房  
1999年5月

バナーマン自身が挿絵を描いた、原作の翻訳版。日本ではドビアス絵の版が有名で、本書が刊行されたのは絶版騒動の約10年後である。

（児玉）

\*表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。